

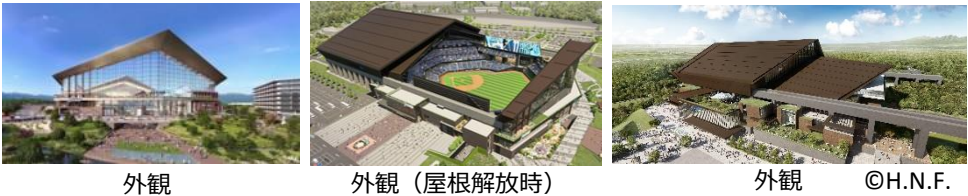
プロジェクトのポイント

- プロ野球球団を運営する民間企業がその知見を最大限に発揮して、**最良のプレー環境と多様な観戦環境を実現するスタジアム**が計画されている。
- プロジェクトが**市の総合計画やスポーツ振興計画等の各種計画に明確に位置づけ**られており、市が新駅開発や道路整備などの後押しをしている。
- 開閉式屋根と天然芝のスタジアムを中心に、北海道らしい自然豊かなエリアと様々なアクティビティが体験できるエンターテインメント空間**がスタジアム内外に計画されている。

施設概要

所在地／アクセス	北海道北広島市共栄／JR北広島駅から徒歩15分		
面積	敷地	47,985.06㎡	延床 120,432.82㎡
構造	鉄骨造（一部鉄筋コンクリート造）地下2階地上6階建		
観客席	収容人数 約35,000人		
付帯施設	VIPルーム	あり	
	飲食・物販	物販、飲食販売、レストラン	
	その他	宿泊施設、温泉等	
ホームチーム	北海道日本ハムファイターズ（プロ野球 パシフィック・リーグ）		
スポーツ興行	・ プロ野球公式戦（年間約80日）		
防災機能	・ 支援物資備蓄拠点、広域避難場所、周辺地域の避難所等との連携を検討し、災害時にも役立つ球場として整備		

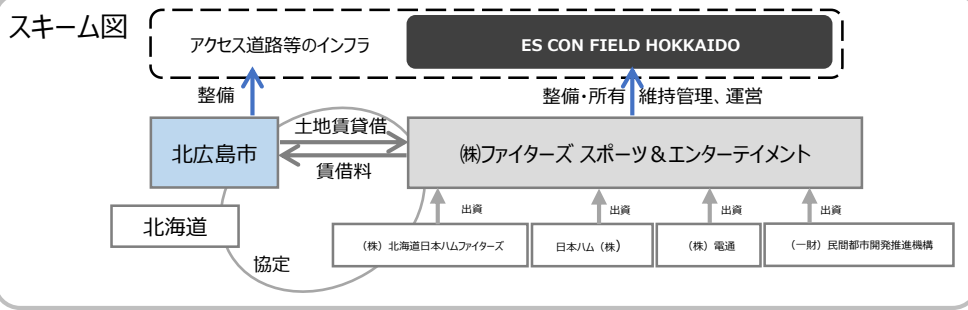
施設写真



事業概要

事業スキーム	市の総合運動公園予定地を球団に貸与し、球団が主となりスタジアムを建設。建設後は、公園施設として球団による管理運営を実施。		
事業主体	（株）ファイターズ スポーツ&エンターテインメント、北広島市		
所有者	土地：北広島市 建物：（株）ファイターズ スポーツ&エンターテインメント		
整備方法	（株）ファイターズ スポーツ&エンターテインメントが整備		
管理・運営方法	（株）ファイターズ スポーツ&エンターテインメントが維持管理運営を行う		
事業期間	整備：2020年5～2022年12月（2年8ヶ月） 運営・管理：2023年3月～		
事業収支	整備費	約60,000百万円	管理運営費 非公開
	利用料収入	非公開	その他収入 非公開
行政の役割・支援	・ 土地造成、周辺インフラ整備、土地貸与		

スキーム図

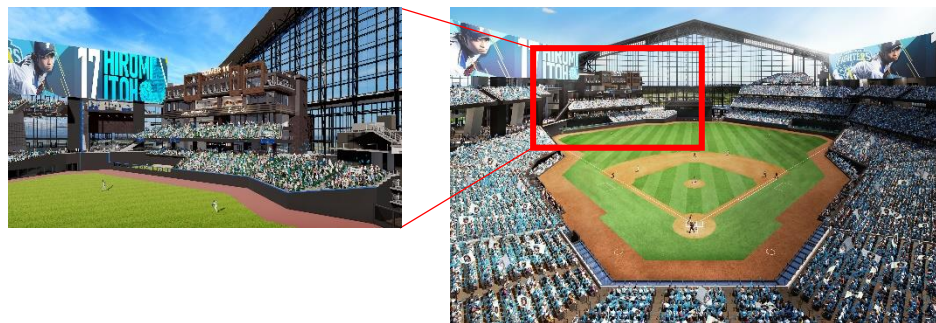


【参考ポイント①】ステークホルダー確認と検討・連携体制の整備

- 当該プロジェクトに決定的な影響を与えると考えられる**重要なステークホルダー 2 者（土地所有者である北広島市と㈱ファイターズ スポーツ & エンターテインメント）**の間で**十分な対話**がなされている。
- スタジアムを含めたボールパークを起点に、周辺地域の価値・魅力の共有や道内各地の活性化を目指した「**オール北海道ボールパーク連携協議会**」を組織。**近隣市町村や関係機関、企業、学識経験者が参画する分科会を通じ、各地域の課題解決**を狙う。新たな「北海道のシンボル」を目指すボールパークを通じ、北海道全体の価値向上と成長・発展へ寄与する広域連携体制が確立されている。

【参考ポイント②】顧客体験価値の向上

- プロ野球というスポーツエンターテインメントを担う事業者の専門的知見や経験を活用**して検討。
- レストラン、温泉/SPA、ホテル等を有する『Tower11』や、グッズショップ、ブルワリー等をスタジアム内に計画。『Tower11』は球場に併設されながらも、**独立運営が可能な施設**であり、**賑わいと新たな観戦環境を創出**する。
- スタジアム周辺に自然豊かなエリアやマーケット、宿泊施設、グランピングなどの施設も整備し、**プロ野球興行がない日も楽しめる空間を提供する計画**になっている。



©H.N.F.

【参考ポイント③】まちづくりの中核となるスタジアム・アリーナの実現

- 北広島市は、官民連携プロジェクトとして北海道日本ハムファイターズの**新球場を核としたボールパークを整備**することで、まちづくりの様々な分野に波及効果を生み出し、市のアイデンティティを高め、持続的な都市経営と地域課題の解決を図ることをボールパーク構想と位置づけ、推進している。
- 北広島市は、市の**総合計画、スポーツ振興計画、都市計画マスタープラン、都市再生整備計画等のまちづくりの計画に当該プロジェクトを明確に位置づけている**。
- 防災拠点としての活用につき、関係者間で協定を締結し、検討。
- 計画段階において、経済波及効果の分析だけでなく、球団・新球場が創出する社会的価値についても調査・検討されている。

<北広島市総合計画（第6次）>



【参考ポイント④】民間活力を活用した手法の採用

- プロ野球球団のコンテンツ力（チームの集客力、試合数の多さ、ブランド価値、社会貢献活動等）を活用して、スタジアムを核に賑わいや交流を創出**する計画となっている。
- 民間事業者の資金調達によりスタジアムを整備する計画である。
- ネーミングライツ等の手法の活用を具体的に事業スキームに反映**。
- 官民の役割分担として、市が公園の造成や、アクセス道路、周辺道路、上下水道等のインフラ整備を担当し、事業を後押ししている。
- ボールパーク構想に伴う協議の中で、市と球団相互の人事交流や、連携事業として球団職員が市内の小・中学校で体育やキャリア教育の授業を行う取組が始まるなど、スタジアム整備だけにとどまらない、官民連携による新たな価値が生まれている。